

全国協議会 ニュース

2017年10月1日発行 第304号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

民間(私的)さい帯血バンクに法規制を！ 国民の信頼を損ねる「臍帯血の不正医療」

8月下旬、全国11カ所のクリニックで、「無届で他人の臍帯血を投与(移植)した」として医師など6人が逮捕された事件は、連日の報道で多くの国民にショックを与えました。新聞各社の社説では、民間さい帯血バンクからの流出が根本問題であり、「実態解明しルール作れ」、「野放しが生んだ悪徳商法」、「再生医療を騙る詐欺行為だ」との見出しが躍っていました。

事件の構図は

破綻した民間さい帯血バンクに保管中の臍帯血が、債権者に差し押さえられ、その後に臍帯血はブローカーに転売され、各クリニックに売却されたのが構図です。それらのクリニックでは、臍帯血投与は、がん治療や美容に効くという医学的には何ら根拠がない広告が行われ、1件あたり数百万円もの高額な自由診療が行われていたのです。

事件容疑は

「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」違反容疑です。患者に臍帯血を投与するには、厚生労働省に届出で承認を受けることが法律で決められています。各クリニックが無届けで行った行為が違反とされたものです。

しかし、そもそも臍帯血の流出元は「民間さい帯血バンク」でしたが、そこには、何らの法的規制はありません。また、臍帯血を転売する行為にも規制はありません。だから野放しだったとの指摘がなされました。

法規制の必要性は

今回の事件報道では、各マスコミとも「再発防止には、民間さい帯血バンクにも法規制が必要ではないか」としています。8月30日に日本医師会は、「再生医療全体の進歩が阻害されることがあってはならないと考える一方

で、国は、民間の臍帯血バンク等の業者による臍帯血など人体組織の保管や流通に関して、法的な規制を含め厳格な監督・監視体制の整備を早急に検討する必要があります。加えて、国民に向けた再生医療に関する正しい知識の普及と啓発に、一層の努力を傾注することを望む。」との声明を出しました。

国の実態調査では

9月12日、国(厚生労働省)は「臍帯血プライベートバンクの実態調査」結果で、民間さい帯血バンクとして保管業務を行っているのは5社あり、契約者や親族の治療目的に保管している計約4万3700人分の臍帯血を保管していることを公表しました。社名の公表に同意したのは「ステムセル研究所」「アイル」「ときわメデックス」の3社、他の2社は不同意。その他仲介業者が1社あり、不同意。とのことでした。実態調査での問題点は)

①契約終了後も廃棄せず保管中の臍帯血が約2100人分あったこと。②契約終了後や廃業した時の所有権や処分方法が不明確なこと。③公的さい帯血バンクの役割と民間さい帯血バンクの違いや実績について説明が不十分なこと。④記録の管理体制が十分でなく、品質や安全性が確認できないこと。の4点をあげています。

国の当面の対策は)

①民間さい帯血バンクに対し、業務内容を届け出るよう厚生労働省健康局

長通知を関係機関、民間さい帯血バンク業者に発出すること。その届出内容は、厚生労働省HPで公表すること。

②契約終了後や廃業時に保管中の臍帯血は返還か廃棄を原則とする契約書のひな型を提示すること。③専門家による委員会を厚生労働省に設置し、対策の効果などを検証すること。④日本医師会、日本産婦人科学会などに対し協力依頼を発出すること。の4点をあげています。

公的さい帯血バンクへの影響

私たちボランティアは、今回の事件は極めて深刻な事態であり、事件関係者には強い憤りを禁じえません。さらに最も心配なことは、国民の信頼を損ねたことから、今後、公的さい帯血バンク事業への悪影響がでないかです。これまで公的さい帯血バンクでは、出産時に善意から提供された臍帯血については、法律に基づき厳重な安全基準により管理されており、全国の患者さんに公平に移植されています。

二度とこの様な事件が起きないことを願っていますが、今回の事件は、氷山の一角であるとの報道もあり、再発防止対策としては、やはり厳格なルール作りと法規制が必要だと考えます。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

🔍 骨髓バンク NOW

(MONTHLY JMDP(9月15日発行)より抜粋)

■日本骨髓バンクの現状(2017年8月末現在)

	7月	8月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,012	2,822	476,746	710,577
患者登録者数	245	253	3,694	51,846
移植例数	100	107	—	21,076

■8月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/841人、献血併行型集団登録会/1,925人、集団登録会/25人、その他/31人

■8月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,040人/20代 70,619人/30代 138,939人
40代 204,061人/50代 59,087人

■8月の20歳未満の登録者150人

■8月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：356件

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

骨髄バンク推進全国大会 2017 in 栃木 開催

9月16日(土)、骨髄バンク全国大会 2017in 栃木が、栃木県小山市「白鷗大学東キャンパス 白鷗ホール」で開催されました。

◆オープニングアクト「白鷗大学ハンドベルクワイア」による演奏

◆第一部式典

◆第二部講演 骨髄バンク事業報告、栃木県の骨髄バンク推進活動の報告、「造血幹細胞移植～臨床の現場からのメッセージ～」の講演

◆第三部体験者講演 移植患者体験談、ACキャンペーン出演中の俳優・木下ほうかさんによる提供体験談とトークセッション

私が最も印象深かったのは、「栃木県の骨髄バンク活動報告」(とちぎ骨髄

バンクを広める会小野敏夫代表)でした。

栃木県のドナー登録者数は、沖縄県に次いで全国2位(骨髄ドナー登録対象年齢人口千人当たりにおける登録者数)で、栃木県18.60人と大変伸びています。全国平均は8.08人です。(2016年1月現在)

○ドナー登録が伸びている要因

基本的に、とちぎの会と栃木県薬務課、栃木県赤十字血液センターの三者間の協力体制の良さです。

第1に、日赤血液センターの担当者の対応です。献血併行登録会で、献血受付時に必ず「本日はドナー登録できます。登録説明員が来ていますが如何ですか」との声掛けをしていること。日赤さんの「声掛け対応」はマニュアル

化されており、ドナー登録が伸びている一番の要因と思いました。

第2に、県の取り組みです。薬務課は、独自に作ったパンフレット、ティッシュ、草花の種等2000～3000個をとちぎの会に提供していること。何よりも、熱心な説明員3名をバックアップし、内1人は今年、薬務課に採用されて説明員をされていることです。

第3は、高校生の献血併行登録会への協力体制です。大田原女子高等学校や矢板高等学校のJRC部(青少年赤十字奉仕団)の皆さんの協力を得て、献血会場で骨髄バンクの広報活動を展開していることも若い登録者が多い要因だと思います。(2016年度20代登録者、栃木県25%、全国平均15%)

千葉の会 梅田正造

【解説】民間(私的)さい帯血バンク問題の経緯

野村正満 (全国協議会副会長)

今回、発覚した事件で「治療」に用いられた臍帯血は、倒産した「つくばブレイズ」という臍帯血の私的保存を行う会社から流出したものとされています。つくばブレイズは、1998年に設立されました。私的バンクの最大手である「ステムセル研究所」も同年の設立です。また、わが国で本格的な公的さい帯血バンク事業のために「日本さい帯血バンクネットワーク」が設立されたのも、同じ1998年です。

私はネットワークの事業運営委員として、発足間もないステムセル研究所を訪問して見学したことがあります。つくばブレイズにも同様の申し入れをしましたが、拒否されました。私的バンクから集めた契約書などを法律家などに見てもらったところ、単に臍帯血を預かる倉庫業のようなものであると分析できました。

私的バンクは「生まれてくる赤ちゃんのために」「将来、その子が病気になった時のために」「臍帯血を保存しよう」という広告を産科医院に置いたり、マタニティー雑誌に掲載するなどして希望者を募り、希望者がいた場合は採血キットと採取方法のメモを産科医院に送って、採取した臍帯血を私的

バンクに送り返してもらい、凍結保存するという仕組みです。費用として最初に20万円ほど、その後毎年保存費用を支払わねばなりません。しかし、経験のない産科スタッフの採取した臍帯血の細胞数や安全性の確保などから、さい帯血バンクネットワークではずっと問題視していました。すでに公的さい帯血バンクの運営にも影響が始め、何しろ臓器である臍帯血を商行為として利潤追求の対象とすること自体に疑問が集中しました。

ネットワークの広報紙「さい帯血バンクNOW第4号」(2002年3月)にはフランス留学中の鎌田薫副会長(当時)のバリ便りとして「自己さい帯血の保存?」を寄稿して、警鐘を鳴らしました。また、プライベートバンク対策小委員会を設け、2002年8月に警告文「さい帯血の私的保存について」で注意喚起を呼びかけました。同時に造血細胞移植学会は声明文を、産婦人科学会は注意文を发出了しました。

今回、流出した臍帯血はひとつ100万円単位で売買されたわけですが、当時から営利企業の事業として倒産などの可能性もあることなどから、厚生省(当時)には、私的さい帯血バンクに

対する明確な判断を求め続けてきましたが、何の規制も対策も行わないままに放置されてきました。2012年に阿部知子衆議院議員の提出した倒産したつくばブレイズなどに関する質問主意書に対する政府の答弁では、「何も把握していない」としています。

最後に、では「臍帯血の私的保存は悪なのか」という視点です。経済的余裕がある人が、どうしても個人的に保存したい、という願望があったとしてもおかしくありません。まあ、あまり意味のあることではありませんが。いけないのは、誰でもが勝手にその商売を始めることができ、上手くいかなかったら逃げ出し、無断で売りに出すことが許される社会です。私はかつて、さい帯血バンクが赤字に苦しんでいた頃、公的さい帯血バンクでも私的保存をやったらどうだろう。技術的ノウハウは持っているし、私的保存で儲けた分で公的バンクの赤字を補填したらどうですか、と言ったことがあります。実は海外ではこのハイブリッド型のさい帯血バンクの運営が普通に行われているのです。「でも、右手で国の補助金をもらって、左手で金儲けはちょっと……」律儀な方、頭の固い方が多いのです。

全国骨髓バンク推進連絡協議会役員紹介

2017年7月1日～2019年6月30日

役職	氏名
会長	仲田順和 (重任)
副会長	渋谷俊徳 (重任)
副会長	東井朝仁 (重任)
副会長	野村正満 (新任)
副会長	菅 早苗 (新任)
理事長	田中重勝 (新任)
副理事長	村上忠雄 (重任)
副理事長	若木 換 (新任)

役職	氏名
副理事長	梅田正造 (新任)
理事	内山景一郎 (重任)
理事	小野喜代人 (新任)
理事	北折健次郎 (再任)
理事	山村詔一郎 (重任)
理事	浅野祐子 (新任)
理事	田中雄一郎 (重任)
理事	辻 枝雄 (重任)

役職	氏名
監事	陽田秀夫 (重任)
監事	一樂邦彦 (重任)
顧問	大谷貴子
顧問	岡村 正
顧問	鎌田 薫
顧問	谷口修一
顧問	岩城光英

3人の副理事長からの挨拶をお届けします

再任です。引き続き頑張ります

村上忠雄



14年前に理事に就任し、2期目から副理事長になり6期連続となります。今、全国協議会は、財政危機

の問題と、もう一つは加盟団体の問題に直面しています。財政危機の問題は7年ほど前に大口の寄付をいただいて以降、新たな収入を得ることに目を向けて力を注いでこなかった結果と反省しております。そこで、現在取り組んでいる賛助会員獲得の一層強化、新規寄付者の開拓、募金箱、広告収入等による収入源確保に力を注ぎ、財政基盤の安定化を図って参りたいと考えます。

もう一つの加盟団体の問題も構成員の高齢化と財源確保の難しさの問題が見受けられ、活動の低下に繋がりがかねないと考えられます。そこで、活動の原点である、地域に目を向け、協力態勢づくりと連携、支援の強化を図るとともに、更には、患者及び患者家族、地域の声をしっかりと聞き、全国協議会と各地域団体等関係者との繋がりを密にして、骨髓バンク活動の一層の推進に力を注いで参りますのでよろしくお願い致します。

新任です。頑張っていきましょう

若木 換



今年度より、副理事長として就任しました、若木換(あらた)です。「骨髓バンクを支援する東京の

会」で骨髓バンクボランティアを始めて24年となります。同じ職場の後輩が、骨髓移植ができなくて26歳の若さで天国へ召されたのをきっかけにボランティアを始めました。

一昨年度より、全国協議会の理事として活動しています。全国協議会は、日本の各地で活躍するボランティアの皆さんのバックアップと、国や日赤に対し、患者・ドナーへの充実した支援制度を要請したり、患者支援の基金を運営しています。

特に20年以上継続している「白血病フリーダイヤル」をもっと患者さんに告知する事を、最優先で取り組んでいます。突然に病気を告知され頭が真っ白になった患者さんに、病気と闘う勇気を持ってもらうために、この電話相談を活用してもらえるようになれば嬉しいです。患者さんのため、ドナーさんのために、頑張っていきましょう！

新任です。よろしくお願いたします

梅田正造



今回、副理事長に就任した梅田正造です。3人の副理事長で役割分担をしましたが私の担当は、事務局等

管理関係、協議会ニュース、グッズ、輝き展、HP・ML、会計、関東甲信越ブロックセミナー等です。

私は、千葉骨髓バンク推進連絡会(千葉の会)で骨髓バンクのボランティアを始め27年になります。現在66歳です。1995年から千葉の会会長、千葉県骨髓移植推進協議会の委員を務めています。また同年ドナーにもなりました。この間全国協議会には、千葉の代表、選挙管理委員長(4回)等で支援してきましたが、現役の会社員として働いており、千葉の会の運営のため理事就任はできませんでした。

今回は皆様からの強い推挙があり、未だに働いておりましたが、お引き受けることになりました。厚生労働省や日本骨髓バンクの委員等の経験も活かし、各部署との関係強化を図るべく微力を尽くしますので宜しくお願い致します。



愛知

保健所研修会で講演



9月12日(火)愛知県主催「平成29年度骨髄バンクドナー登録業務担当者研修会」(参加者30人)にてお話ししてきました。

この研修会は愛知県内の保健所担当者の研修会で毎年行われています。グラビアを使用した説明手順をレクチャー後、患者さんにご同行いただき発病から移植、現在に至るまでの想いやドナーさんへの感謝の気持ちを伝え

ていただきました。

職員の方々は患者さんとお話する機会がほとんどありません。研修会に参加いただくことにより、患者さんを身近に感じていただき、登録者拡大にご尽力いただけると嬉しいです。

あいちの会では行政と協力して大学、看護学校などに出向き説明会、講演会などを積極的に行っています。行政とともに若年層に向けての普及啓発活動を今後も行っていきたいと考えています。あいちの会 水谷久美

愛知

ラジオ生出演に感謝

9月18日(祝・月)CBCラジオ「つボイノリオの聞けば聞くほど」9時から11時55分までの生放送に出演してきました。聞けば聞くほどは毎年行われる「CBCラジオ夏まつり」のブースでの販売収益金をあいちの会にご寄付くださっています。

また、25年前に始まったこの番組



に当時、大谷貴子さんが出演、以来ずっと骨髄バンクを応援していただいています。今回も骨髄バンクの現状、問題点や患者さんのQOLについて、献血やいのちについてなど本当に多くのことをお話しさせていただきました。

番組中にたくさんのお便りも届いていました。放送を聞いて登録を考えた方もいらっしゃると思います。患者家族の方から「活動を頑張ってください」とのメッセージもいただいています。つボイノリオさん、スタッフの方々、リスナーの皆様さんのお力を借りて、今後も多くの患者さんが移植を受けることが出来るよう頑張ろうと改めて感じた一日でした。

あいちの会 水谷久美・北折健次郎

～代々木公園に初雪を降らせませんか?～



今年も11月11日(土)～12日(日)に開催される「SNOWBANK PAY IT FORWARD2017」は「東京雪祭」と題し、多くの方々に来場していただき、献血・骨髄バンクの大切さを発信します。

骨髄バンクが無かった時代から皆様の活動が、多くの患者さんの力になりました。そんな感謝の気持ちをすべての方に「PAY BACK」するのは難しいので、未来の患者さんの為に「PAY IT FORWARD」しようと思立ちスタートしたのがこの活動です。

今年はいくさんの方々にドナー登録していただく為に献血バス2台体制で開催し二日間で200名以上の献血、100名以上の骨髄ドナー登録者を獲得

<雪主振込口座>

ゆうちょ銀行

〇一八店(ゼロイチハチ店)

普通預金 9893009

名義 一般社団法人 SNOWBANK

したいと思います。そこで目標実現の為に雪広場や様々なアクティビティを用意し、たくさんの若者を集客し伝える場をつくりたいと思います。

ただ、この活動の中で使用する雪を降らせる費用など実現させる為にはたくさんの実行予算が必要になります。

そこでこのイベントでは毎年、一口2000円からの「雪主」を集め実現させています。SNOWBANK活動の継続の為に、皆様のお力をお貸しください。

一人でも多くの笑顔のためにSNOWBANKは全力で走り続けます。

皆様のご協力よろしく願っています。一般社団法人 SNOWBANK 代表理事 荒井善正

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】

株式会社大垣共立銀行、成瀬千春=岐阜

心からのご寄付に感謝申し上げます ●8月21日～9月20日(敬称略)

●一般

株式会社エイブラフト	現金	20,000円
鈴木 あや子	現金	20,000円
藤波 敬子	現金	10,000円
塩谷 泰人	現金	1,000円
鈴木 純子	現金	1,348円
飛田 行康	現金	30,000円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	2,000円

●白血病患者支援基金

櫻井 康司	現金	100,000円
●佐藤さち子患者支援基金		
会津テニス協会・株式会社ゼビオ・丸善商事株式会社	現金	50,000円
日根 和美	現金	10,000円
沼田 和恵	現金	2,000円
福崎 勝利	現金	20,000円

●志村大輔基金

守屋 俊晴	現金	10,000円
-------	----	---------

●募金箱

株式会社サカタのタネ	花統括部	現金	279,086円
あんがいおまる一座		現金	1,681円
金寿司		現金	5,000円
有限会社新柳本店		現金	8,287円
株式会社カンセキ	西川田店	現金	10,669円

●かざして募金

	現金	7,400円
--	----	--------

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会